

平成30年度指定管理者制度活用事業 評価シート(こども文化センター)

1. 基本事項

施設名称	高津区第3グループ(末長・子母口・梶ヶ谷)	評価対象年度	平成30年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日～平成31年3月31日	所管課	こども未来局 青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	H29		H30		H29		H30	
	1 末長こども文化センター ①年間延べ利用者数	44,843人	46,189人	②年間延べ利用団体数	411団体	433団体		
2 末長小学校わくわくプラザ ①登録者数	566人	556人	②年間延べ利用者数	34,901人	37,784人			
3 新作小学校わくわくプラザ ①登録者数	254人	266人	②年間延べ利用者数	15,473人	17,496人			
4 橋小学校わくわくプラザ ①登録者数	362人	352人	②年間延べ利用者数	25,690人	26,956人			
1 子母口こども文化センター ①年間延べ利用者数	36,130人	33,451人	②年間延べ利用団体数	430団体	414団体			
2 久末小学校わくわくプラザ ①登録者数	390人	394人	②年間延べ利用者数	23,836人	20,554人			
3 子母口小学校わくわくプラザ ①登録者数	436人	477人	②年間延べ利用者数	28,478人	31,794人			
1 梶ヶ谷こども文化センター ①年間延べ利用者数	26,410人	24,037人	②年間延べ利用団体数	315団体	297団体			
2 梶ヶ谷小学校わくわくプラザ ①登録者数	426人	424人	②年間延べ利用者数	23,743人	27,045人			
3 西梶ヶ谷小学校わくわくプラザ ①登録者数	321人	310人	②年間延べ利用者数	24,792人	25,543人			
収支実績	単位:円 1 収入 指定管理料 187,611,403 2 支出 人件費 156,514,024 管理費 11,260,561 事務経費 8,747,173 その他経費 10,115,270 合計 186,637,028 3 差引 974,375							
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、館の活動や運営に反映した。また、事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など、地域を越えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施した。							

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進及び事業成果	「仕様書」を遵守して適切な事業の実施がなされているか。	10	4	8
		「事業計画」に基づき、着実な事業の推進がなされているか。			
		「こども文化センター」の運営をすることにより、児童の健全な育成が図られているか。			
		「わくわくプラザ事業」を実施することにより、放課後児童の健全育成が図られているか。			
(評価の理由) ・仕様書・事業計画に基づき、こども文化センター及びわくわくプラザ事業を適正に実施した。 ・末長こども文化センターでは、地域の関係会議に館長が出席して理解を得ることで、「第27回施設合同まつり」では100人を超える地域ボランティアが事業の運営に関わり、周辺地域との交流が促進された。また、まつりの前売り券を管内全ての小学校に配布することで、1,000人を超える来場者があり、こども文化センターの活動周知が図られた。 ・子母口こども文化センターでは、小学生及び幼児を対象とした新たな取組として、「大型遊具と迷路の日」を実施した。利用者が少ない年末年始等の休み期間に開催したことで、期間中の小学生と幼児親子の来館比率が上がり、また、普段は別室で遊んでいる幼児と小学生を職員が安全管理して同室で遊べるようにすることで、多世代交流が図られた。 ・こうした取り組みの結果、小学生の利用者数が昨年より約2500人増加した。 ・その他の取組としては、梶ヶ谷こども文化センターでは、宮崎中学校と連携した大型遊具遊び行事と子育て講座を合わせて実施した。近隣保育園に保育士の派遣を依頼し、多世代交流と保護者への子育て支援が促進された。					
サービス向上及び業務改善	利用者ニーズ	サービス向上のために、利用者等の意見を適切に把握しているか。	10	3	6
		利用者ニーズを把握し、事業実施に適切に反映しているか。			
		苦情対応など、利用者への適切な対応が図られているか。			
	特別な配慮を要する利用者への対応	特別な配慮を要する利用者への対応が適切になされているか。	5	4	4
	学校及び行政機関との連携	事業の実施にあたり、学校及び行政機関、地域の団体等との連携がなされているか。	10	3	6
	施設・事業の広報	施設を知ってもらい、事業の充実を図るための周知の活動等に取り組んでいるか。	5	4	4
	運営協議会の実施	「こども文化センター運営協議会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3
保護者懇談会の実施	「わくわくプラザ保護者懇談会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3	
(評価の理由) ・利用者ニーズについて、意見箱の活用や利用者アンケート、子ども運営会議等を通して、利用者ニーズ把握に努めたほか、苦情等への対応も適切に行われている。 ・特別な配慮を要する児童への対応については、対応方法についての研修を行い、研修成果として、児童に館内のルールを理解させる際に、大人からの注意や指示を口頭ではなく、やっとなど良いときはマル印、だめなときは×印等、伝えたいことをイラストのカードで示すなどの工夫を行うなど、児童の処遇向上が図られた。 ・学校及び行政機関との連携については、末長こども文化センターでは、橋中学校地域教育会議に館長や職員が参加して普段から地域と顔の見える関係づくりを行った結果、工作等を得意とするこども文化センターの経験を活かし、地域教育会議の文化教室で「クリスマスフォトフレーム」づくりの担当の依頼を新たに受けて実施した。また、子母口こども文化センターでは、新たな取組として川崎市教育委員会と共催で「百人一首大会」をプラザ橋で開催した。 ・施設・事業の広報については、ホームページやおたより、イベント情報等を周知するブラックボードの設置等、多様な媒体を組み合わせた効果的な広報を行っている。特に、子母口こども文化センターでは、中高生の来館を図るため、近隣中学校の昇降口に中高生だより専用掲示コーナーを設けるなど、対象年齢を捉えた広報を行った。 ・運営協議会の実施について、運営協議会が設置され、事業計画どおりに開催されている。 ・保護者懇談会については、より多くの保護者が参加できるよう開催日程や時間を調整して開催され、保護者の要望を把握している。西梶ヶ谷小わくわくプラザでは、保護者懇談会に「親子ランチ」を併せて開催することで、利用者同士や親子の交流を促進した。					

組織管理 管理体制	適正な人員配置	「児童福祉施設の設置及び運営の基準に関する条例」第54条に基づく職員配置がなされているか。	10	3	6
		「仕様書」において定める職員配置の最低基準が順守されているか。			
		「川崎市公契約条例」が遵守されているか。			
	職員の研修体制	職員の資質向上のために必要な研修が実施されているか。	10	4	8
職員が研修に参加しやすい仕組みづくりがなされているか。					
個人情報等の取扱	法人として、個人情報保護に関する規定や体制を整備しており、適正に取り組んでいるか。	5	3	3	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正な人員配置については、こども文化センター及びわくわくプラザにおいて、仕様書・事業計画に基づき、適正な配置がされている。 ・職員の研修体制については、館内会議やスタッフ会議等において、研修を受講した職員がその知識を共有しているほか、研修資料やレポートをファイル等に一元化して管理し、職員が閲覧できる等、共有化の仕組み作りができています。さらに、子母口こども文化センターでは、東橋中学校の先生を招いて、中高生の現状と不登校児対応等についての研修を行った結果、中高生との適度な距離感について学ぶことができ、夜間に利用する中高生の処遇改善に繋げることができました。 ・個人情報の取扱については、法人において定めている、個人情報保護方針及び取扱規定に基づいて、個人情報等は鍵のかかる保管庫に保管されている。また個人情報の漏洩の事実はありません。 					
適正な業務 実施	施設・設備の 保守管理	安全な施設利用のため、施設や設備の保守・点検を適切に行っているか。	5	3	3
		必要に応じて適切な維持・補修がなされているか。			
		備品等の管理が適切になされているか。			
	利用者の安全 確保	利用者の安全を確保するための体制が整っているか。	5	4	4
		事故等が発生した場合に迅速かつ適切な対応が図られているか。			
		事故防止や感染症予防対策等が事前に図られているか。			
防犯対策 及び 災害時の対応	施設の防犯対策に工夫がなされているか。	5	4	4	
	災害発生時に備えた対応が図られているか。				
	災害発生時に適切な対応・行動ができる取組がなされているか。				
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の保守管理については、こども文化センター・わくわくプラザ共に、施設・設備の保守点検を日常的に行い、補修が必要な場合は適宜、工事等実施している。 ・利用者の安全確保については、財団作成の各種マニュアルに沿って、事故対応や衛生管理等を適切に行っている。全職員に普通救命講習を受講させ市民救命士の資格を取得させるとともに、AEDをできるように定期的な実習訓練を行っている。館長会議を通じて事故の事例を共有するとともに、実際の事故を基にした事例検討を各館で定期的に行っている。また、職員ミーティング、スタッフ会議において、施設で起こり得る危険な状況への対応策等が職員間で共有されている。 ・防犯対策及び災害時の対応として、法人作成の「不審者対応マニュアル」や、館ごとに作成している「災害時対応マニュアル」に基づき、消防訓練、避難訓練の実施等、防災体制の強化に取り組んでいる。特に、末長こども文化センターでは、館長が小学校区避難所設置運営委員会の総務部に所属し、設営会議や設営訓練に参加している等、地域団体や警察等と連携し、防犯・防災対策に積極的に取り組んでいる。 					
収支計画・ 実績	適切な金銭管理・ 会計手続	法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされているか。	5	3	3
	効率的・効果的な 支出	「事業計画」に沿った適切な支出がなされているか。	5	3	3
		効率的な執行に努め、経費削減に具体的に取り組んでいるか。			
		支出に見合う効果が効果が得られており、サービス水準も確保されているか。			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金銭管理・会計手続については、適正に行われている。 ・受託20グループ52施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取組により、効率的・効果的な経費の支出がなされている。 					

4. 総合評価

評価点合計	68	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

<p>市内20グループのこども文化センター及びわくわくプラザの指定管理を行うスケールメリットを活かし、効率的・効果的な事業運営を行っている他、全館・全区合同事業の実施、経験や役割に応じた計画的な研修実施によって職員の資質向上を図り、また研修内容・事故状況等の情報を全館で共有するなどにより、安定的で良質なサービス提供を行っている。</p> <p>各館においても、近隣中学校や教育委員会、地域関係団体等との顔の見える関係づくりに努め、連携・協力した事業を行った。また、末長こども文化センターでは、地域の避難所運営委員会に主体的に参加するなど、防犯・防災面においても地域における役割を果たしている。</p>

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

<p>今後も、地域社会全体で子どもを見守り育てる、安全・安心な居場所となるよう、環境整備や職員のスキル向上に努め、学校、行政、地域の各団体が共に連携しながら地域づくりを進めることで、職員と子どもの顔の見える関係を築き、小中高生から高齢者まで、多世代にとって、居心地のよい場となるよう努めること。また、学校及び行政機関、地域の団体等の連携については、新たな主体との連携に取り組んだり、地域課題を共有しながら効果のある取組を積極的に行うことが望ましい。</p>
--